

公表 所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	発達サポート being		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◇アセスメント力 ・心理専門職が発達支援の統括を行っているためアセスメントの様々な手法を用いて、根拠ある支援を行っている。	・アセスメントに基づき、子どもの社会性の発達や認知特性に応じたクラスを柔軟に設定している。 ・心理士の見立てを参考に一人ひとりが安心できる環境を構成している。	・職員のアセスメント力を鍛える
2	◇専門性 ・経験豊富かつ専門性向上のための努力を惜しまない保育士が揃っている。 ・発達支援の理念「社会モデルの支援」、指針「行動療法」「感覚統合」「環境構成」を職員間で共有している。 ・終日研修を年に2回実施して、職員のスキル向上を目指している。	・職員の自己研鑽を奨励し、自主的に受ける研修等の費用を補助している。 ・発達支援に関わる資格に手当をつけている。	・揺るぎない理念と指針の共有
3	◇環境 ・大、中、小の療育室、広い園庭を備えているため多様にプログラムを展開できる。	・天井の頑丈な梁を利用して、吊り下げ遊具を使い感覚統合療法を応用した「プレイランド式」のクラス、一人ずつ机に座り個別の課題からはじまり、選択自由遊び、集合の遊びへと形態が変わるクラス等、内容も大きく2つに分かれていて、複数日利用の場合は、異なる形態の療育活動に参加できる。	・療育室の使い方を固定せず、利用している子どもたちに応じたグループ分けや個別対応を柔軟な考えと工夫で調整する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◇人員配置 ・男性職員がいたら良いとすることがある ・求人そのものに困難を感じる。募集をしても応募が少ない。	・事業所個別の要因ではないと考えている。	・改善と言うよりも、発達支援の質の高さを強みにして特徴をアピールしたい。
2		・事業所を運営していくに当たり、困ることや苦しいことは日々のこと。それを弱みと考えず、意識し過ぎず嘆かず、工夫して乗り切るという考えです。	
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達サポート being (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		2026年 1月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◇アセスメント力 ・心理専門職が発達支援の統括を行っているためアセスメントの様々な手法を用いて、根拠ある支援を行っている。	・アセスメントに基づき、子どもの社会性の発達や認知特性に配慮して、トラブルがおきにくい環境を設定している。 ・心理士の見立てを参考に一人ひとりが安心して課題や遊びに集中できるように環境設定を行っている。	・職員のアセスメント力を鍛える
2	◇専門性 ・経験豊富かつ専門性向上のための努力を惜しまない保育士が揃っている。 ・発達支援の理念「社会モデルの支援」、指針「行動療法」「感覚統合」「環境構成」を職員間で共有している。 ・終日研修を年に2回実施して、職員のスキル向上を目指している。	・職員の自己研鑽を奨励し、自主的に受ける研修等の費用を補助している。 ・発達支援に関わる資格に手当をつけている。	・揺るぎない理念と指針の共有
3	◇環境 ・大、中、小の療育室を備えているので、子どもたちが安心して過ごせる室内環境を提供することができる。 ・広い庭、タイヤ遊具、砂場、菜園等、外遊び環境も充実している。	・活動や、子ども同士の相性等により過ごす空間を分けている。 ・感覚統合やソーシャルスキルの遊びを室内外で展開している。	・療育室の使い方を固定せず、利用している子どもたちに応じたグループ分けや個別対応を柔軟な考えと工夫で調整する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◇人員配置 ・男性職員がいたら良いと感じることがある ・求人そのものに困難を感じる。求人をしても応募は極めて少ない。	・事業所個別の要因ではないと考えている。	・改善と言うよりも、発達支援の質の高さを強みにして特徴をアピールしたい。
2		・事業所を運営していくに当たり、困ることや苦しいことは日々のこと。それを弱みと考えず、意識し過ぎず嘆かず、工夫して乗り切るという考えです。	
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達サポート being (保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ◎担当の専門性 ・公認心理師の資格を持つ元保育者養成校教員と、元認定こども園主幹保育教諭の2名が担当している。 ・子どもと訪問先のニーズに応じて、心理または保育の専門職が訪問を実施できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの行動を分かりやすく通訳すること ・対応が難しいと思われる子どもの行動の意味や理由を発達の視点で丁寧に説明している。図式、イラスト等を使うこともある。 ・訪問先の環境や行事等も考慮して、訪問日を調整したり支援内容を検討したりして、集団の場でできる支援を先生方と共に検討するように心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎コミュニケーションと連携 ・訪問先の先生方とのコミュニケーションを大切に考え間接支援(コンサルテーション)と直接支援を適宜組み合わせることで訪問を進めるように務める。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者との連携 ・連携の難しさがある。母親もフルタイムで働く方が多いため、お会いする時間の調整が難しい。担当者会議以降は、保護者の心配や考えを知ることが十分ではないまま支援を進めることも少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎連絡方法の工夫 ・夜間や休日にオンラインを使うことも稀にあるが良い方法だとは思えない。課題の要因は事業所だけにある訳ではないので、お互いに努力する姿勢は必要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎訪問報告書に対するフィードバック ・訪問報告書を発行しているため、保護者からの発信がしやすくなるような手立てが必要だと感じる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ◎人手不足と人材育成 ・有休等により児発、放デイに職員欠員が出ると、訪問担当が欠員を補うことになるので、訪問に出ることができない。 ・訪問支援に必要な知識やスキルを持つ人材育成には時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人をしては応募は少ない。こども園等の保育士の処遇は勢いを持って改善されている状況で、事業所の人材確保、人材育成はますます困難になっている。 ・職員配置の厳しい体制も訪問を困難にする事由のひとつである。行政、自治体の支えが乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎縮小 ・保育所等訪問支援を保育機関のみに移行中。小学校等には、特別支援教諭やコーディネーター等の専門家が在籍しているため、担当者会議で訪問支援に変わる情報提供をする方向。
3			